

被災地支援報告

被災地では、現在も全国の自治体から派遣された応援職員が現地の職員とともに業務にあたっています。今年度、海老名市からは3人の職員を現地に派遣しています。3人は復興の現場でどのような業務につき、どのようなことを感じているのか。派遣先からの報告です。



① 派遣先／岩手県上閉伊郡大槌町

森川浩次 担当／民生部長寿課長

私自身、被災地への派遣は平成24年度の宮城県石巻市に続き2回目になります。現地で目の当たりにする被害状況は、被災地ごとに大分違います。特に大槌町は中心市街地が津波被害にあっていることからゼロからの再生という点で課題も多く、一つ一つ解決しなければなりません。時間的な余裕もないことから、適切な判断をするための調整がかなり大変だと感じています。

担当業務は、介護保険や高齢者施策全般に関するもので、現在は私も仮設住宅に居住し、役場へ通っています。前回の派遣時にも感じ



ゼロからの再生 適切な判断と調整が要

たことですが、現地で生活すると東北の人たちの人情味にあふれた優しく温かい人柄を実感します。

心のこもった「ありがとう」という言葉。もしも逆の立場になった時、自分には自然に感謝の気持ちを感じることが出来るだろうか…と自問自答することもあります。

大槌町に限らず、被災地の人的支援はこれからも継続していく必要があると感じています。最終的には、地元の職員のみで仕事を進めていかなくてはならないので、しっかりと伝えていくことが重要であると思っています。

大槌町では、災害公営住宅や消防庁舎の完成、小中一貫校の建設など、目に見える形での復興も進んでいます。新巻鮭発祥の地でもあり、町内のいたる所から湧水が湧き出す美しい町です。1日も早い復興に向け、私も尽力したいと思っています。がんばっぺし！

② 派遣先／宮城県石巻市

高島常康 担当／財務部資産税課土地グループ主幹

風化させぬためにも現地へ

石巻市で固定資産税(土地)の評価に関する業務を行っています。不動産登記の異動や農地転用許可などで利用状況に変更が見込まれる土地をはじめ、担当する地区全部の土地を調査しています。



海老名市から石巻市への

③ 派遣先／福島県相馬市

沼田則子

担当／保健福祉部保健センター・保健師

相馬市は人口約3万5千人、福島県浜通りの東北端にあります。相馬市には、津波による大きな被害を受けた沿岸部と、比較的放射線量が高い山間部があります。私は保健師として、仮設住宅や復興住宅などに住む被災者の健康支援や心の健康づくりに関する支援、保健センター業務全般に携わっています。また、全国各地から相馬市に派遣されている職員約30人の体調や心のケアについても意識して声掛けをしています。

現地へ入る前に、実際に被災地支援に入ったことのある県の保健師に現地の状況や保健師に求めら



正しく理解することが 風評被害払拭に



▲井戸端長屋(復興住宅)の共同スペースでは簡単な体操なども行う

れること、心構えなどを確認してから相馬にきました。

ここでは、新聞やニュースで県内に設置された環境放射線量測定値や、野菜・魚介類などに含まれる放射性セシウムの検査結果、福島第一原発の作業状況が毎日報告されています。現地に入って、これまで見てきたニュースや報道と異なる現実が見えてきました。実際に見て、学ぶことが多いとあらためて感じています。

震災から5年近くが経過し、津

職員派遣は私で3人目。東日本大震災から3年たつてからの赴任で、今年度は派遣2年目になります。被災地への派遣は、被災地の「人」や「まち」の現状を自分で見聞きし、震災の記録・記憶を、家族をはじめ多くの人に伝える役割、そして、万が一、海老名で大きな災害が発生したときに備え、被災地の固定資産税の扱いについて知識を得る機会でもありと考えていました。

石巻市には全国から72団体・203人(28年1月1日現在)の自治体職員が派遣されています。石巻市の職員に加え、多くの派遣

波被害の整地も進み、復興住宅への入居もほぼ完了しています。一見落ち着いた様子を取り戻しつつあるかのように見えますが、今後は環境の変化や潜在化していた心の問題が年齢に関係なく表面化してくると思われ、更なる健康支援が求められます。

県外の方々には実際に現地に来て、見て、聞いて、感じてほしいと思います。今後も正しく放射能を理解し、風評被害を払拭していくことが不可欠だと思います。

職員と仕事や親睦を深めることができ、自分にとって大きな財産になっていると感じています。毎年夏に開催される石巻市最大のイベント「石巻川開き祭り」では、手漕ぎの船による「孫兵衛船競漕」にもみんなで参加しました。

復興の道はまだ半ばです。石巻市の正規職員の多くは、復興関連事業に従事しています。復興を終えた後の長期的な人件費増大などを考えると、一概に正規職員を増やせばいいとは言えません。復興関連事業に携わる石巻市職員が本来の業務に戻ることができるまでは、派遣職員などのマンパワーが必要だと思います。



▲仲間との絆を深める「孫兵衛船競漕」

石巻市には、豊かな自然と歴史、さまざまな見どころがあります。震災を風化させないため、また、災害への備え・教訓を得るためとしても、皆さんが石巻に足を運ぶことが大きな支援になると思います。